

とです。まだ、国内の動物園には種の保存の思想が完全には浸透していないころのことです。希少種は人気者が多く、園は手放すことに躊躇する時代でした。ゴリラとなるとなお更の事です。そこに、上野動物園がゴリラの繁殖計画のため、国内の単独飼育の個体を集めたいとの申し出がありました。そのとき、一番に手を上げたのが当園でした。当時の動物園や会社に感服するしだいです。残念ながら、上野動物園に出向いた雄のゴリラ（ドラム）は子孫を残すことは出来ませんでした、そのことがきっかけとなり、現在の上野動物園のゴリラの繁殖に繋がったと信じております。

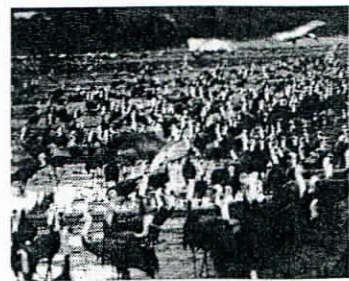
近年になって域内保全について、動物園の役割が注目されるようになりました。当園は隣接する住吉海岸に上陸するアカウミガメの調査研究を宮崎大学、地域の研究者等と共に組織する宮崎野生動物研究会のメンバーとして既に三十年近く携わってまいりました。また、隣県の出水市に越冬で飛来するナベヅルやマナヅルが一九七九年当時餌不足で困っていることを知り、その一助として、動物園が地域の皆様に呼びかけて落穂や二番穂を集めて届ける運動を行ってまいりました。地元のツルを保護する方々には大変感謝されました。以後毎年実施してまいりましたが、餌不足も解消され、感染症等の問題もあり、一昨年に取り止めることにしました。これも、時代の新たな動向だと思えます。

一方、周囲の田畑に、ドジョウやトノサマガエルなどの姿を見なくなった現在において、どのように、対処していけばいいのか、大変重要な課題となってくることでしょう。それでは動物園はどのような役割を担うのか、今後、地方の動物園に科せられる大きな課題になると思えます。

ゴリラのドラム



出水市のツルの飛来地の様子



アカウミガメ



六、最後に

誕生からその歩みを振り返ってみました。今回は紹介できなかったことも多く、改めて、動物園の多様性に驚かされる次第です。当園には遊園地があります。私は、遊園地の遊具も非日常的体験（遠心力、重力等）をする教育施設だと思っています。今回は紙面の関係で取り上げませんでしたが、宮崎市という地方都市において、動物園と遊園地を併設することは、とても意義のあることだと考えます。

平成十九年（二〇〇七年）に、宮崎市にリニューアル計画が持ち上がりました。現在、最も注目されています旭川市旭山動物園の園長、副園長の両名をお呼びし、アドバイス等もいただきました。もちろん、宮崎市フェニックス自然動物園もそのプロジェクトに参加して、今後の動物園構想に取り組んでいます。そんな中ではありますが、私なりに宮崎市の動物園がこうあればいいなと思います、私が思う「こう在りたい宮崎市フェニックス自然動物園」として、図式形式でまとめてみました。ここに、紹介します。

最後になりますが、今後も動物園は変化し進化していくものと信じています。将来、動物園がますます進化し、私の想像もつかない発展をとげ、すばらしい姿になっていくことを期待しています。

